建設産業新聞　（第3種郵便物認可）

東北版
東北支社
仙台市青葉区本町三丁目5番3号（佐新ビル3階）
☎ 022（224）0123㈹
FAX 022（267）6827

東北工大建築学科50周年記念事業がスタート

UCLA建築学科長の阿部仁史氏が記念講演

『学生と教職員は知識生産のパートナー』

16年で創設50周年を迎える東北工業大学建築学科記念事業のキックオフ企画が26日、仙台市のせんだいメディアテークで開かれ、建築家の阿部仁史UCLA芸術・建築学科・建築学科学科長・元東北工大建築学科教員が記念講演を行った。この中で同氏は、実際行っているアメリカの大学の建築学教育を紹介しながら、「建築の枠組みを広げていけるような教育の可能性の環境を創っていくことが重要ではないか」と訴え、さらに「学生と教職員はともに知識を産み出すパートナーであるべきだ」と、これからの建築教育の在り方について提言した。

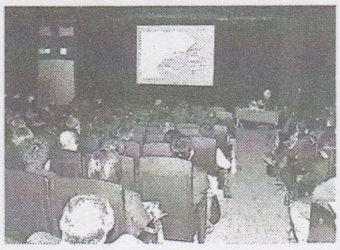
講演会には建築学科の教員や卒業生、学生、一般市民ら180人が出席。石井敏建築学科長が「今年3月の卒業生を入れると7464人が卒業し、宮城、東北、そして全国でOBが活躍している。大学、学生、教職員、OBが一体となり地域社会とつながって貢献していくことが使命だ」とあいさつした。

阿部氏

阿部氏が掲げた講演テーマは「境界を越えて－建築の可能性と建築教育の未来」。94年から02年まで8年間の東北工業大学建築学科助教授時代を振り返り、「学生は知識の消費者ではなく、いかに生産者になるか、その場所をどう創っていくかが課題だった」と振り返った。

そして現在のUCLAの教育について触れ、「米国の建築学科は建築家を創り出す教育を行っており、大学教育を外部評価するNAAB（全米建築課程認定委員会）から高い評価を得ている。一方、日本の建築学科教育は、建築に関わる人を育てており、建築家になるのはわずか5%。幅広く建築を学ぶことができるのが日本の特長だ」とした上で、ボーイングやトヨタ、ディズニーランドなどと連携した取り組みを紹介、「日本の研究室のような取り組みをアメリカの教育に持ち込むもの面白いのではないか」と語った。

50周年記念講演会、シンポジウムは、5月14日、7月9日、9月20日と続き、10月8日には50周年記念式典と卒業生の集いが行われる。



簡易公募型プロポ 5日まで参加表明書

水質保全対策検討

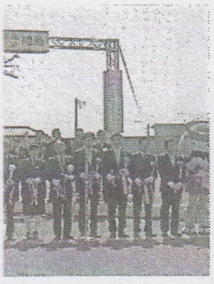
東北地方整備局釜房ダム管理所は29日、簡易公募型プロポーザルにより「ダム水質保全対策検討業務」を公示する。（7面参照）4月5日まで参加表明書を受け付ける。ダム貯水池における異臭味現象のモニタリング調査結果のとりまとめと、既存の水質保全施設の運用手法を見直し、今後の水質管理の方向性を総括的にまとめる。履行期限は17年3月24日まで。

東北地方整備局釜房ダム

「多賀城IC」でアクセス向上

三陸道「仙塩道路4車線化」で渋滞緩和

東北地方整備局とNEXCO東北（東日本高速道路）は、仙塩道路を利用した山田塩釜港へのアクセス向上を目的とした多賀城インターチェンジ（IC）の整備を進めており、今年3月から東北自動車道の多賀城ICへの乗り入れ、仙塩道路を利用した山田塩釜港へのアクセスが向上するこの、さらに南も大きく効果を発揮する。


関係者によるテープカット

東北整備局
NEXCO東北

城県常磐・三陸縦貫自動車道整備促進期成同盟会副会長の亀山紘石巻市長は「三陸沿岸道路は、復興を牽引するレールとなる。復興まちづくりの一環として、沿岸部の復興の拠点として新しい息吹が吹き込まれ、福島復興の最前線を支えるテナントにより福島・東北の復興に貢献できると確信している」と述べ、今後も除染や洋上発電など被災地復興に寄与する事業推進に決意を表明した。遠藤町長は「ふるさと復興・再生にむけてのイノベーション構想の一環で、約1000人が住むまちづくりを進めており、先がけとなるオフィスビルの完成は復興推進と活気ある街づくりに大きく寄与する」と期待をよせた。

竣工祝賀会で宮本社長は「開発公募で全国94作品のなかから選定された司打大字下浅見川字狐町野町が推進する復興整備事業「広野駅東側開発整備事業（第一期）」の主要区画に位置し、浜通りの復興拠点を目指し、開発事業者の公募により清水建設提案の福島再生加速化交付金を活用した計画案が採択され、設計・施工で整備が進められた。規模はS造6階建延3454・92平方㍍で免震構造。非常用電源と太陽光発電パネルの電力供給などによってテナントBCP（事業継続計画）を支援する最先端の設備を備えている。建設地は

福島復興整備事業のリーディングプロジェクト「広野みらいオフィス」が竣工

JR常磐線広野駅東口に免震ビル

福島復興整備事業のリーディングプロジェクトとしてJR常磐線広野駅東口に清水建設が建設を進めてきた「広野みらいオフィス」が26日、現地で竣工式を迎え、4月からテナントビルとしてオープンする。

福島県広

宮本社長

竣工式では、神事で宮本洋一清水建設取締役社長、遠藤智広野町長、竹浪浩清水建設常務執行役員東北支店長ら関係者が玉ぐしを捧げ、無事完成を祝い、オフィスの発展を祈願した。

記者会見で竹浪支店長は「沿岸部の復興の拠点として新しい息吹が吹き込まれ、福島復興の最前線を支えるテナントにより福島・東北の復興に貢献できると確信している」と述べ、今後も除染や洋上発電など被災地復興に寄与する事業推進に決意を表明した。遠藤町長は「ふるさと復興・再生にむけてのイノベーション構想の一環で、約1000人が住むまちづくりを進めており、先がけとなるオフィスビルの完成は復興推進と活気ある街づくりに大きく寄与する」と期待をよせた。

竣工祝賀会で宮本社長は「開発公募で全国94作品のなかから選定された

関西版

最優秀特定者に新

高槻市は、高槻市新文化施設設計業務で公募型プロポーザルを実施し、最優秀特定者に日建設計を選定した。25日には設計者選定に向けた公開プレ

2段階選抜で7日

祢布トン

近畿地方整備局は、日高豊岡南道路祢布トンネル工事で一次審査の評価点合計の上位者を指名し、技術提案により二次審査を行う段階選抜方式を試行する。施工体制確認型総合評価による一般競争入札（WTO対象）を適用、一次審査に関する申請書及び資料を3月28日～4月7日まで、二次審査に関する技術提案書を5月16日～6月1日